



九州シンクロトロン光研究センター 県有ビームライン利用報告書

課題番号：2011124L

BL番号：BL09

(様式第5号)

シンクロトロン光を突然変異原として活用した 花きの新品種育成 Mutation breeding of flowers using synchrotron light

坂本 健一郎 東 哲典 中島 治
Kenichiro Sakamoto Tetsunori Higashi Osamu Nakajima

佐賀県農業試験研究センター
Saga prefectural agriculture research center

- ※1 先端創生利用（長期タイプ）課題は、実施課題名の末尾に期を表す（Ⅰ）、（Ⅱ）、（Ⅲ）を追記してください。
- ※2 利用情報の公開が必要な課題は、本利用報告書とは別に利用年度終了後2年以内に研究成果公開〔論文（査読付）の発表又は研究センターの研究成果公報で公表〕が必要です（トライアル利用を除く）。
- ※3 実験に参加された機関を全てご記載ください。
- ※4 共著者には実験参加者をご記載ください（各実験参加機関より1人以上）。

1. 概要

本試験では、キクにおいてシンクロトロン光照射による実用的形質を有する変異体の作出を目的にビームライン09（以下BL09）で照射を行った。その結果、いずれの照射区においても100%の生存率であった。

現在、照射により得られた個体を栽培中であり、今後、有用な花色変異を有する変異個体を選抜予定である。

(English)

In this study, we have investigated that synchrotron lights can be employed to induce mutation. To produce mutants having commercial traits in chrysanthemum, we have irradiated with synchrotron lights in beam line 09 (BL09). As a result, the survival rates were 100% at all treatments.

At present, the plantlets obtained are grown, we will select the mutants with flower color mutants.

2. 背景と目的

花き類では、これまでにキクにおいてシンクロトロン光を照射することにより、様々な花色変異や早生化等の有用な変異系統を獲得することができた。

今回の試験では、淡桃色の夏秋スプレーギク系統において白色花変異個体の獲得を目的に、シンクロトロン光を照射し、白色花の有用変異個体の獲得を試みる。

3. 実験内容

- (1) 供試系統：夏秋スプレーギク系統「2017Z-501」
- (2) 照射材料：挿し穂の頂芽
- (3) ビームライン：BL09
- (4) 吸収線量：0 Gy（対照区）、10 Gy、15 Gy、20 Gy

(5) 照射日：2021年2月19日

(6) 調査項目：照射後の生存率、開花の花色等の調査

(7) 実験方法：

以下の手順で実験を行った。

1. キク親株から採穂後、展開葉を除去し、頂芽から約6cmの長さに穂を調整
2. 調整した穂15~20本を湿らせた新聞紙でくるみ、円柱形のプラスチックケースに入れる
3. 穂を詰めたプラスチックケースを照射台に固定（図1）
4. 処理区ごとに試料にシンクロトロン光を照射
5. 処理後の穂を挿し木し、本圃へ定植までミスト灌水で管理
6. 発根後、親株床に定植
7. 定植後に伸長した芽を2~3回摘心し、その後伸長した腋芽を採穂後、挿し木
8. 発根後、本圃へ定植し、変異形質の調査予定

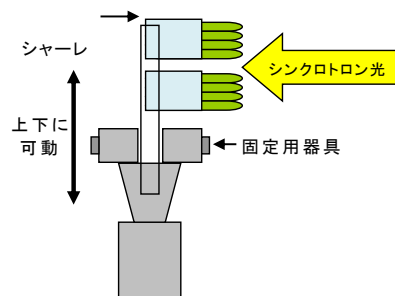


図1 実験レイアウト(キクの場合)

4. 実験結果と考察

本試験では、淡桃色の夏秋スプレーギク系統において白色花変異個体の獲得を目的に、挿し穂に10、15 および 20 Gy でシンクロトロン光を照射した。照射後に挿し木を行い、発根した個体を圃場に定植し、照射 12 週間後に生存率を調査した。その結果、すべての照射区で無照射区と同等の 100% の生存率であった。なお、20 Gy 照射区では他の照射区と比較して、やや生育速度が緩慢であった。

現在、照射個体を 2021 年 8~9 月開花作型で栽培中であり、開花時における変異形質を調査し、白色の花色変異個体を選抜する予定である。

5. 今後の課題

照射個体の中から開花遅延や奇形花等が発生しない実用性の高い、白色の花色変異個体を選抜する。

6. 参考文献

7. 論文発表・特許（注：本課題に関連するこれまでの代表的な成果）

8. キーワード（注：試料及び実験方法を特定する用語を2~3）

- ・突然変異：偶発的または人為的に DNA 塩基配列が変化すること。
- ・Gy（グレイ）：放射線のエネルギーがどれだけ物質に吸収されたかを表す単位。

9. 研究成果公開について（注：※2に記載した研究成果の公開について①と②のうち該当しない方を消してください。また、論文（査読付）発表と研究センターへの報告、または研究成果公報への原稿提出時期を記入してください。提出期限は利用年度終了後2年以内です。例えば2018年度実施課題であれば、2020年度末（2021年3月31日）となります。）

長期タイプ課題は、ご利用の最終期の利用報告書にご記入ください。

① 論文（査読付）発表の報告

（報告時期： 年 月）

② 研究成果公報の原稿提出

（提出時期： 2023 年 3 月）